

会報

第 34 号 (2016/4/12)

広島県福山市木之庄町 4-3-14

Tel & Fax: 084-917-5937

Mail: info@crrc-fukuyama.org



Community Renaissance
Research Center

4月・5月の予定



4月20日(水) 14時〜16時

「仁伍ニコニコ合唱団」合唱練習

・場所：地域福祉センター仁伍

・講師：村山ひろみさん(元市立大学教授)

・参加費：500円

鯉まつりでのステージ発表に向けて、地域の絆の皆さんと合唱の練習をします。



5月8日(日) 10時〜13時半頃 (予定)

鯉まつり

・場所：仁伍広場

地域の絆の利用者さんや学生さんなどによるステージ、飲食、ゲームコーナーがあります。ルネッサンスでは例年のようにリサイクルバザーを出店します。もしご自宅で提供できる品がありましたら、5月2日までにルネッサンスまでお持ちください。

どちらもお手伝い頂ける方は

ご連絡頂けるとありがたいです

味噌づくり



3月9日(水) 14時から、味噌づくりをしました。地域の絆の利用者さんも含め、全部で15名の参加でした。

まずは、一晩水に浸けた大豆を講座前日に一日かけて煮込みました。柔らかくなっていたので、ミキサーは使わず手で潰していきます。大豆の粒が少し残る程度に滑らかになったら、麴を加えて更に捏ねます。十分きれいに混ぜたら、お餅のように丸め、空気を抜くように樽の中に投げ込んでいきます。最後に、カビを防ぐために焼酎を振りかけて、出来上がり！これから少なくとも半年寝かせて、熟成するのを待ちます。

まずは大豆を手で潰します



すりこぎを使って
よいなめらかに



剥ぎにくい八朔

口に入りそうになるのを我慢して
山盛り剥いてくれました



見事な手さばき！見習いたいです



ルネッサンスの味噌づくりも今年で4回目です。皆さん手順を覚えスムーズに作業が進みました。混ぜる作業をしていない間も、ボウルを押さえてくださったり、次は何をすればいい？と聞いてくださったりと積極的に参加されていました。

味噌づくりの合間に、昼食の準備も進めていきます。今年もおにぎり作りは名人の利用者さんにお願ひしました。お上手であったという間に出来上がりました。おかずをカップに詰めてもらったり、八朔の皮を剥いたりと全員で作業をすめました。

昨年の味噌で豚汁を作りました。おかわりされる方がたくさんいらつしやいました。ささげの豆を混ぜたおにぎりも好評でした。

お土産に味噌を少しですが持ち帰って頂きました。また半年後に美味しい味噌が出来上がるのが楽しみです。

全員で協力して
出来上がり♪
皆さんほぼ完食でした



「講座」その人を理解するための
傾聴とは？

1. はじめに

3月16日(水)14時から、傾聴についての学習を参加者6人でおこないました。以下その内容の概略を報告します。

まず、講師の牧田さんから、イギリスで傾聴の手法を使ったジェンダー問題を学んできたお話がありました。

もともと聞き書きは民俗学や人類学の研究方法でした。これらを研究する人たちは、研究対象とする地域に住む人たちの語りに耳を傾け、メモや記録を作成してきました。調査者はその地域の人たちの活動に参加しながら記録を取っ

ていくのです。こうした調査方法を参与観察と言うそうです。こうして作成した記録をもとに、その地域の人たちの行為を理解するとともに、その行為の意味の持つ構造を理解し、分析をしてきたのです。

この研究手法が、介護の場で使われるようになってきています。そうした研究者にはや六車由美などが挙げられます。T. キトウッドは『認知症のパーソンセンタード・ケア』(1997年)の中で、これまでの認知症高齢者の見方とは異なった視点からとらえる「新しいケアの文化」を提唱しています。また、もともと民俗学の研究者であった六車由美は『驚きの介護民俗学』(2012年)のなかで、民俗学の研究手法を使って高齢者の話を聞くことで、その人の生活歴など生きてきた背景などを知ることができたと述べています。

2. 高齢者の

「その人らしさ」の支援

厚生労働省は2005年に「個人が人として尊厳を持って、家庭や地域のなかでその人らしい自立した生活が送れるように支える」ことが大切であると提案しました。

では、認知症になると「その人らしさ」は失われるのでしょうか。

認知症であっても「その人らしさ」が失われなようにするにはどうすればよいのでしょうか。そのためには、ケアをする人たちが「認知症のある人」をどのように理解するかが大切なのです。

その理解する中身は、

- ① その人の生活歴を理解する
- …その人のこれまでの暮らし方を知る
- ② その人の生活してきた地域の文化を理解する
- ③ その人の持つ役割意識を理解する
- ④ その人の持つ関係性の理解をする

そのように認知症高齢者のことを理解することとは、表1(別紙添付資料)でキトウッドが示しているように、認知症をどのように見たらよいか、と言いつことから、支援する側が認知症の人を理解することで変わっていく、と言いつことになるのです。

すなわち、キトウッドは「その人らしさ」は人間関係や社会的存在の中にあり、その人の持つ関係性をケアに取り入れることがその人らしさを尊重するケアである「新しいケアの文化」と言っています。

3. 傾聴の中から見えてきた「人」

牧田さんは、ある漁村の高齢者施設でボランティアとして職員さんたちと一緒に仕事をしながら、認知高齢者の話を聞き取りまとめられました。その中から2つの事例について話されました。

1) 魚を売ってきた人

かなり遠くの山奥まで魚を売りに行っていた。その日に帰ることができないので、買ってくれた家の軒下などに休ませてもらった。家に入れて

もらったこともある。そうした話の中から、漁村の女性の働き方や、一般に男性が漁をして女性が売り歩くという、分業になっていると考えられがちであるが、意外にも女性も男性と一緒に漁に出て働いていたことが分かった。

2) がらくたを集めている人

スリッパが片方などといった、どう見てもがらくたとは思えないものが「ゴチャ」「チャと家に溢れている人があった。ときどき施設の職員さんが整理するけれども、しばらくするとまた以前と同じようになっていた。どうしてそのようなゴミのようなものを集めるのかが分からなかった。あるとき、私のスリッパ片方を「それきれいな」と言いつて持ち帰ったことがあった。それで、まわりの人に聞いてみると、その人は東京の洋裁学校で3年間学んだあと、故郷に帰って近所の人の洋服の注文を受けたり、隣接する都市の洋品店の注文を大量に受けて生計を立ててきた人であった。まわりの人からはがらくたと思えないようなものでも、その人にとっては「キレイだ」と思いつて持ち帰っていることが分かった。

3) 傾聴から見えてきたこと

教えてもらう、という態度で話を聞くと、わりと話してもらえらる。短時間で話すと誤解が生まれる。あまり話そうとしてももらえないが、立ち話などでは意外に色々なことが話に出てくる。その人の話は事実とは違っているかも知れないが、今語られていることを尊敬すべき人生の大

先輩の話としてありのままに受け取ることが必要。

4. 交流の中から



牧田さんの話が終わったあと、お茶を飲みながらこの会に出席した思いや感想などを出し合いました。以下その時の発言の概略です。

- ・40年くらい前、勤務先ではじめて役付きになった時に研修会があった。その時の話は部下の言うことを良く聞きなさい、と言つことであつた。しかし最近孫の相手をしていると、言つことがはつきりしないので分からぬが、何となくこんなことが言いたいのかな、と推し量っている。これは全ての人に当てはまるのではないかと思つて今日の話聞いた。

- ・二人の子どもがいるが、子どもだけと向き合っていると虐待に結びつくなと思つことがあつた。家族の中での高齢者の虐待などがニュースになっているが、認知症に対する理解とともに介護の社会化の意味も考えるようになった。

- ・民生委員をしているが、高齢者の認知症を家族の人が一番気がついていないように思う。いろいろなことを言つて見張っている感じになつても…と思ひ、どう話したらよいのかと思つて参加した。

- ・認知症を持った従姉を見てみると、一見メチャメチャなことを言つているようだけれども、これ

までの言動から推し量つてみると、何となく言いたいことは分かるような気がする。二枚のハガキを読んだときに、直近のことは忘れていても、その人に対する感情は残つていると思つた場面にも出合つた。

- ・町内の子どもたちも、あまり口を聞かないようにみえるが、話しかけると結構色々なことを喋る。高齢者も同じである。中学校を卒業するとき、「これまで見守つてくれていてありがとう」と言つてくれる子どももいた。

- ・介護の仕事をするなかで、高齢者の方が話されていることは事実とは異なつているが、その言葉の中に、その人なりの思いが込められているんだらうな、という場面に出合つた経験がある。その思いを推し量りながら、そのまま話を受け止めることが大切なんだと思つた。

仁伍ニコニコ合唱団

3月23日(水)、鯉まつりでのステージ発表に向けて練習を再開しました。これまではグループホームの利用者さんを中心にNPO集会所で開催していましたが、より多くの方に参加して頂けるよう、今回は小規模多機能型居宅介護施設である地域福祉センター仁伍で初めて開催しました。

仁伍音楽祭から4ヶ月あいたが開いていたの
 でしょうかなあと思いましたが、「青山脈」のピア
 ノ伴奏が始まるとすぐに大きな声で歌い始めま
 した。初めて参加される方も多く、声はあまり
 出ていなくても、次はどこ？と歌集のページをめ
 くり歌を楽しんでいるようでした。



大勢の方に参加して
 いただきました



地域の絆で開催してみて、初めて知ったことが
 ありました。おやつに蒸かし芋と八朔を用意し
 ていたのですが、制限されている方も多いとのこ
 と。「お茶をもう一杯ちょうだい」と言われ注ご
 うとすると、職員さんに「その方は水分制限が
 あるので」と慌てて止められたり…

甘いお菓子ではなく、蒸かし芋や八朔のよう
 なものでも食べられない、お茶が飲めない方も
 沢山いることがわかりました。次回は、おやつは
 まず職員さんに見てもらい、職員さんから利用
 者さんに配ってもらうことにしました。

また、ピアノが壁に向いており、講師の村山先
 生が皆さんの顔を見て歌うことが出来なかった
 ため、次回はルネッサンスの電子ピアノを持って
 行くことにしました。

お花見に行きました

4月6日(水)にお花見をしました。暖かく最
 高のお花見日和。福山城の予定でしたが、皆さ
 んの希望で元短大のキャンパスに行きました。満
 開の桜、ひらひらと花びらが舞い散る中でお弁
 当をいただきました。私たちは大学事務局に許
 可をもらってお花見をさせてもらいましたが、
 一般開放していないのがもったいない見事な桜
 でした。



満開の桜を貸し切り♪



図書整理



これまで伊佐さんに図書の整理をしていただ
 きました。名古屋に帰られてから、市民の皆様
 に開放すると言いながなかなか実現できずに
 きていました。この3月から、市の図書館図書で
 あった三宅理恵子さんに、オープンのための準
 備として、まず新たに増えた図書の整理をして
 いただいています。どのような形でオープンした
 らよいか、皆様のお知恵をお貸しください。三
 宅さん、よろしくお願ひします。

編集後記



日々暖かくなり心地よい風に触れると、ある
 ことわざを思い出しました。「春風の中に坐する
 が如し」慈愛溢れる良い師に恵まれると、暖か
 い春風の中ですくすくと草木が育っていくよう
 に、どんどん自分が伸ばされていくといった意味
 です。親子共に大好きな幼稚園に巡り会い、「こ
 の春卒園を迎え感謝の気持ちでいっぱいです。
 また、私にとってこの2年間コミュニティルネッサ
 ンスでのお仕事は春風のような素敵なお仕事でし
 た。娘の入学を機に私も新しい職に就くことに
 なり、お会いする機会は減るかもしれませんが
 が、これからも顔を出しますのでよろしくお願
 ひします。次号からは羽田さんにバトンタッチし
 ます。(原)